

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

今後の生涯学習の振興方策について その2 (公民館関連抜粋)

4.5

- 2 **トピックス** 第56回新潟県公民館大会開催
- 3 **視点** 心通う地域に！
- 3 **ひろば** 同行二人
- 6 **実践記録シリーズ** 新潟市生涯学習センター ボランティア「Lの会」が歩みだしました！！
- 7 **サークル交流** びでおさーくる・みつけ (見附市) / ピアノサークル「おたまじゃくし」 (湯沢町)
- 7 **素顔拝見** 佐藤 直人さん (上越市) / 土田 孝さん (田上町)



栃尾市 「静御前の墓」

表紙解説 栃尾市栃尾の高徳寺坂に建つ静御前の墓。義経を追って奥州をめざしながら、この地で病没したとされています。

第56回新潟県公民館大会開催

フルーツ王国「しろね」の地で

新しいまちづくりと公民館の創造

去る7月15日(金)、第56回新潟県公民館大会が、フルーツ王国「しろね」の地、新潟市白根学習館で開催された。下越地区での久しぶりの開催であったが、当日は四百八十余名の参加が得られた。梅雨の最中にもかかわらず当日は天候も快晴に恵まれ、主管の新潟市公連はじめ、新潟市白根地区公民館の全面的なご尽力により、内容の濃い充実した大会とすることができた。



渡辺十寸雄大会実行委員長の開式の言葉、三保恵美子会長の主催者挨拶、武藤克己新潟県教育長の共催挨拶に続いて表彰式に移った。永年勤続表彰者は七名(下欄に掲載)で、三保会長から表彰状と記念品がそれぞれ各人に手渡された。

来賓ご祝辞、来賓紹介、祝電披露の後、公民館を取り巻く現下の急務の課題について、中山吉吉実行副委員長から大会決議文案が提案され、満場一致で採択された。その後、一時間三十分におたり「入づくり・まちづくり・未来づくり」と題して、

モアクリエイション代表取締役の柴田光榮先生から、変革の理念、公民館の役割等、具体的な事例を交えて基調講演がなされた。

午後事例発表・討議は司会の村山清一様のリードの下、「中一ギヤップの解消と通学キャンプの実践を通して」妙高市公民館妙高地区館後藤眞作館長、「住民参画をめざす公民館活動」魚沼市生涯学習課恩田知弥派遣社会教育主事、「地域づくりと公民館」新発田市加治

第56回大会決議文

市町村合併特例法の適用期限を迎えた今年度、県内の市町村合併も最終段階となった。

一方、公民館が60年を迎えようとする歩みの中で、公民館を取り巻く環境が厳しさを増してきている。数度にわたる社会教育法の改正は、事業面における公民館への期待を表すとともに、一面では住民参加の原則が疎かにされかねない改正もなされた。また、現実の公民館の運営が、公民館費や職員削減など行政改革のもとで厳しい局面にさらされてきている。

このような厳しい状況の中で、7・13水害、10・23中越地震、19年ぶりの豪雪といった災害に昨年度次々襲われた中越地区公民館連絡協議会にあっては、これら大災害をてこにして防災、危機管理をテーマに本年6月早々、全県下に呼びかけ特別研修会を開催した。この姿勢に、われわれ関係者一同、謙虚に学ばなければならない。

そこで、昨年度水害のためにやむなく開催中止、紙上大会となった第55回大会決議に立ち返り、ここに再度、大会決議する。

記

- 公民館関係職員の意識改革と研修のさらなる充実を図る
 - 公民館の設置及び運営に関する基準(新基準)の趣旨を踏まえ、自らの職責を強く自覚し、地域住民の要求課題・必要課題を的確に把握し、多様な講座・事業の実施に努める。
 - 講座・事業等の推進のため、施設・設備の整備を働きかけ、資料の蓄積や指導体制を整える等職員研修の充実にとともに、自らの力量の向上を図る。
 - 外部評価の導入などにより事業評価の改善を図り、またボランティア等の人材をいかして、活力ある公民館の再構築を目指す。
- 都市公連の再編と新しい研修組織の確立に再度努める
 - 旧都市公連の枠を越えた、新しい研修組織の編成・確立に努める。
 - 研修組織・研修内容の充実のため、当該市町村及び公民館と連携を図りながら、研修予算の確保・人的支援体制の充実を努める。
- 新潟県公民館連合会の果たすべき役割を積極的に行う
 - 合併後の新しい地域づくりを進めるために、公民館の必要性を強く訴え、専門的職員の配置を確保するよう各方面に働きかける。
 - 県公連「自主財源確立のための調査検討委員会」の活動を強化して、県市長会、県町村会、県公民館振興市町村長連盟と密接な連携を図りながら、県内外の情報提供・交換、県公連の組織強化及び財政の確立に努める。
 - 平成の大合併終了後の新しい県公連役員組織、事業のあり方等について、再度検討する。

平成17年7月15日
第56回新潟県公民館大会

川地区公民館吉田雅則主事から、それぞれ具体的な実践事例をおしした発表がなされた。

まとめと今後の方向づけは、助言者の手島勇平様から、公民館を取り巻く厳しい状況について、公民館人はどう向き合うか、心構えを含めて方向性を示していただいた。

そして閉会式では、次期開催地小千谷市公民館廣井一館長に大会旗が引き継がれ、大会は滞りなく終了した。

永年勤続受賞者

新潟県公民館連合会

氏名	所属公民館並びに役職
1 笹川 弘 司	新潟市味方地区公民館 館長
2 滝澤 ミドリ	前新潟市味方地区公民館七穂分館 館長
3 宮部 富 次	長岡市中之島公民館中之島分館 館長
4 吉岡 千鶴子	前上越市立公民館八千浦分館 協力員
5 坂上 和 雄	加茂市公民館西分館 主事
6 勝 又 依	加茂市公民館運営審議会委員
7 熊 倉 幹 雄	村上市岩船地区公民館 館長

視点

心通う 地域に！



見附市文化ホール館長 犬塚 守明

平成の大合併も始まり各市町村も大きな組織になりましたが、私の住むまちは自律の道を選択しました。これからはそれぞれの特色を持ったまちづくりや、住民と共にアイデアを活かしたまちづくりなどが進められていることと思います。

私は「まちづくりは人づくり」と公民館活動を行ってきました。まちおこし、地域おこし、コミュニティ等の言葉が飛びかう中、何をすればと考える時、まず町内の付き合

いを大切に思いました。隣人との付き合いが薄れている今の頃、公民館を中心に集い、住民と共に地域づくりを進めていかなければならぬ。そして、その間に生まれる信頼関係を大切にし、より細かなサービスを提供し、さらに地域との絆を太くすれば、より良いまちづくりができるのでは…。

公民館のこれからの活躍を期待します。

H O T N E W S 掲 示 板

平成17年度 第1回 月刊公民館編集委員会開催

1. 会議次第
 - 日時：平成17年7月5日(火)
午後2時～午後4時30分
 - 場所：全国公民館連合会会議室
 - 1 開会
 - 2 協議事項
 - (1) 委員長選出 委員長 加藤雅晴
副委員長 鈴木友夫
 - (2) 今後の編集方針等について、全公連の17年度事業方針による
 - (3) 10月号以降の特集テーマ、執筆者の選定等
 - (4) 第2回編集委員会の日程 10月21日(金)
 - (5) その他
 - 参考資料
 - 特集テーマについての資料(委員から学がった特集テーマ)
 - 既刊号(過去5年分)の特集一覧
 - 3 閉会
- 月刊公民館編集委員 (平成17年度) (50音順)
2. 編集委員名簿
 - 安東 敏子 (春日部市教育委員長)
 - 井上 昌幸 (国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)
 - 加藤 雅晴 (川村学園女子大学教授)
 - 鈴木 友夫 (新潟県公民館連合会事務局長)
 - 田中 雅文 (日本女子大学教授)
 - 中森美都子 (国分寺市本多公民館職員)
 - 藤井 均 (元埼玉県教育委員会教育委員長)
 - 山本 昌博 (文部科学省生涯学習政策局社会教育課)
 - 石川 正夫 (全国公民館連合会事務局長)

○委員長 ○副委員長

5月初旬のある日、消雪具合がどうかと近くの畑に行った。ところどころ土が見えてはいたがまだ10センチ程度の積雪があった。帰り道暖かな陽ざしが心地よく、柔らかに芽吹き始めた樺の木立を眺めながら足早に歩いた。

ふと目を落として自分の影を目で追いながらハッとした。18年前に他界した母が歩いていた。思わず胸に込み上げてくるものがあった。まさか母の歩き方をもちらっていたことなど自覚してはいなかった。



津南町社会教育委員 半戸 ヨシイ

今年私たちは婦人会で学習してきた成果を、行事の伝承と郷土料理の伝承を課題として、津南の暮らしという本にまとめようとしている。両方とも意識しなければ消滅するかもしれない。しかし命(遺伝子)は確実に次世代に継承されるのだと気づいた。

遍路をする時、大師様と同行であることを信じて歩くという。私は母と同行二人、母の教えを信じ、母を辱めることのないように生きたいと思う。

同行二人

津南町社会教育委員 半戸 ヨシイ



方策について(公民館関連抜粋)

その2

住民全体が気軽に集える、人間力の向上等を中心とした、コミュニティのためのサービスを総合的に提供する拠点へと大きく変わっていくことが求められる。このためには地域の学習ニーズの把握、大学を含む地域の学習資源のコーディネート、学習資源の提供サービスの充実が望まれる。また、子どもや若者、働き盛りの世代の人の学習や活動の拠点になるよう、講座内容や施設の改善等を図ることが望まれる。

(5)生涯学習推進センター等(以下説明略)

2. 学校(以下説明略)

2. 国・地方公共団体等と関係機関・団体等との関係の見直し

現在、都道府県においては、民間教育事業者、NPO等と連携しているのはともに約半数であり、市町村においては、民間教育事業者、NPO等と連携しているのはそれぞれ約15%、約3割という状況にある(平成14年文部科学省委託調査)。

今後、国や地方公共団体、社会教育施設等においては、民間教育事業者、社会教育関係団体、NPO、地域住民などの関係機関・団体等との関係について、一層の「協働」(お互いの特性を認識し、尊重し合いながら、対等な立場の下に、積極的に協力し合うこと)が必要である。

例えば、平成14年7月の中教審答申「青少年の奉仕活動・体験活動の振興方策等について」でも提言された、市区町村や学校、大学、公民館、地区センター、NPOや地域ボランティア等が連携・協力して、余裕教室や公民館、地区センター等を活用し、地域住民が日常的に活動に取り組むことができる、身近な地域拠点としての「地域プラットフォーム」や「広域プラットフォーム」の整備を進めていくことが重要である。特に、こうした取組に民間企業が参入することにより、産・官・学・民の協働・連携の充実を図っていくことが望まれる。

4. 生涯学習振興を担う職員等の在り方

- 生涯学習振興を担う職員としては、教育委員会に置かれている社会教育主事や公民館主事、図書館の司書、博物館の学芸員、市町村などに置かれている社会教育の各分野の直接

指導に当たる社会教育指導員、社会教育関係団体の指導者などがある。このほか、カルチャーセンター等の職員や、社会教育関係団体やNPO、ボランティア活動を担う地域住民等、様々な機会や場で活躍している人がいる。現在、国民のニーズが多様化している中で、住民の視点を持ち、幅広い視野を持つ人材の養成や、学習する一人一人のニーズに合わせて、学習相談に応じられる人材を育成することが必要である。このため、現在行われている国、都道府県、市町村における各種の講習・研修の充実が求められる。

- 学校、家庭、地域社会、関係機関・団体等の連携・協働を促進するためには、これらの連携を図るコーディネート機能の充実が必要である。
- 人事異動の中で学校現場から教員が来て2、3年で異動するという、これまでの公民館や市町村教育委員会のローテーション人事のやり方では、コーディネーターとしての能力を持った人材は育たないと考えられる。また、公務員の雇用制度が多様化していることもあり、公務員の生涯学習振興行政についてのセンスとスキルの向上など人材の育成のための努力が必要と考えられる。また、民間教育事業者やNPO、ボランティアの生涯学習振興行政との協働や柔軟な参画のノウハウの育成を図るための方策の検討が求められる。

V 国・地方公共団体の今後の役割等

1. 国、都道府県、市町村の現状(以下説明略)
2. 基本的考え方
 - (1)国、都道府県、市町村の役割等(以下説明略)
 - (2)国、都道府県、市町村の関係(以下説明略)
 - (3)地域の実情に応じた施策の在り方(以下説明略)
 - (4)市町村合併への対応

今後、市町村合併が進展していく中で、地域に密着しているという公民館等の従来のメリットを大切にしながら、合併によって新たに生まれた市等の中での公民館や図書館同士の連携の強化などを行うことにより、合併がプラスに働くよう、努めることが重要である。また、それとともに、施設の配置や専門性を持った職員の配置、学校の教職員の社会教育関係への異動の在り方についても、検討を進めていくことが必要と考えられる。

特集

今後の生涯学習の振興

—文部科学省社会教育課長講話資料から—

審議経過の報告

平成16年3月29日

中央教育審議会生涯学習分科会 続き

IV 関係機関・団体等の活動の活性化のために

1. 関係機関・団体等の活動の活性化のための方策

生涯学習振興施策を進める上で重要な機関である公民館、図書館、博物館等の社会教育施設の活動の活性化のための方策について議論したところ、次のような意見が出された。

- ・ 国や地方の財政状況等を踏まえ、業務の効率化を図るとともに、開館時間の延長等の住民へのサービスの向上が必要である。
- ・ 各地域における社会教育施設間の連携、及び、大学、企業、民間教育事業者、社会教育関係団体、NPO、地域住民等との間の協働の強化が必要であるとともに、公民館等においては、講座等についての情報が地域住民全体によく伝わるよう、インターネットの活用など情報の提供方法を工夫することが必要である。
- ・ 公民館、図書館、博物館等の社会教育施設では、学校教育施設と比較してIT環境の整備は進んでおらず、情報提供などにおいて情報化が遅れている。また、社会教育施設の情報化については、図書館のレファレンスや地域情報の発信等の多様なサービスを提供していくことに対応しているとは言えない状況にあり、学校教育の情報化と同様、数値目標を掲げて高度情報化を推進することが必要との意見もあった。社会教育施設の高度情報化を推進するためには、単に情報機器を整備するだけではなく、ネットワークの構築や、職員の情報活用能力の育成等を推進するとともに、コンテンツ(情報内容)作成等の活動が行えるスペースの確保などの配慮も必要であると考えられる。
- ・ 公民館同士の情報交換と図書館同士の情報の共有の充実、博物館の収蔵品の情報提供システムの拡充を図るなど、各機関同士の広域的な連携のネットワークを拡充することが必要である。
- ・ 高齢者や障害者、乳幼児連れの人への対応といった観点での施設・設備のバリアフリー(無障壁)化が必要であるとともに、施設の複合化についての検討も必要であると考えられる。
- ・ 現在、各地において、ボランティア活動の

機運が盛り上がり、そうした活動は、各人が社会の形成に主体的に参画する新しい「公共」の精神を涵養する活動になっている。そこで、ボランティア活動の自主性を尊重しながら、こうした活動が活性化されるような環境づくりが更に必要になると考える。

- ・ 財政が逼迫している中においては、今後、成人や高齢者に対する講座の提供等については、受益者負担についての検討が必要と考える。また、学習者がその学習成果を生かし、公民館などでボランティアとして活動する場合、これらの活動の諸経費の費用弁償などの有償化についても、今後更に議論を深めていくことが重要と考える。
 - ・ 平成15年の地方自治法の改正に伴い、指定管理者制度が導入され、民間事業者を含めた法人その他団体による公の施設の管理の代行が可能となった。これについては、業務の効率化や、開館時間の延長等の住民へのサービスの向上といった特長と、責任の所在の明確化や専門的な知識・技術の蓄積、職員の研修の実施、設置者と住民による点検・評価等の問題点について十分な検討が必要と考える。
- これら以外の、関係機関・団体等の活動の活性化のための方策について出された意見は、別添2のとおりである。

別添2

関係機関・団体等の活動の活性化のための方策に関する意見(別添1.を除く)

1. 社会教育施設

(2) 公民館等

- ・ 公民館で開設されている講座については、数は増加傾向にあるが、その内容は、依然として、趣味・稽古事に関する講座が多くを占め(37%、平成13年度)、利用者が特定の住民に限定されている傾向にあるのではないかと考えられる。
- ・ 現在、公民館等が設置された時代とは、時代背景や社会の構造、国民意識やその成熟度が大きく変化している中、公民館の役割や講座の在り方等についての見直しが必要である。
- ・ 今後は、社会の要請に的確に対応し、子どもや若者、働き盛りの世代の人も含めて地域

実践記録 シリーズ 89



風船を飛ばそう

新潟市生涯学習センター ボランティア「Lの会」が歩みだしました!!

Lの会 南波 弘

1 新潟市生涯学習センター（新潟市中央公民館）オープン

平成17年5月7日(土)、市民の生涯にわたる学習活動を支援する施設として新潟市生涯学習センター（クロスバルにいがた）がオープンしました。このセンターは中央公民館とセンター図書館を併設しています。さらに国際友好会館との複合施設でもあります。

2 新潟市生涯学習センターボランティアの養成

新潟市生涯学習センターのオープンに向けて、新潟市教育委員会の主催で、ボランティア養成講座が実施されました。基調講演「生涯学習ボランティアの役割」、基礎講座「ボランティア活動の基本について」など2回、コーディネーター養成講座「ボランティアコーディネーターの取組み」など5回、部門別講座「広報紙作成」、「話し方」の講座が実施されました。コーディネーター養成講座は約40人の市民が受講しました。そして、受講生の中で、生涯学習センターの「キャッチコピー」を考えました。

「つなげよう心と心

～出会い・ふれあい・学びあい～

3 「Lの会」の結成

ボランティアの力を結集し、その活動をスムーズに実践するため、ボランティアの会を結成しました。ボランティア養成講座の中で話し合った結果、「生涯学習」の英訳「Life Long Learning」の頭3文字の「L」を採用して、「Lの会」としました。

4 「Lの会」だより 創刊

平成17年3月16日

「新潟市生涯学習センターオープン」および「ボランティア企画・運営のオープニングイベントデー」を市民にお知らせし、併せて「Lの会」の紹介を主な内容として創刊号を発行しました。続いて、平成17年7月2日には第2号「5月21日(土)オープニングイベントデー特集号!!」を発行しました。今後は年4回発行する予定です。

5 ボランティアとしての初めての实践

平成17年5月21日(土)のオープニングイベントデーに向けて、各担当者が平成17年1月19日の「第

1回イベント打合せ」から5月18日の「最終イベント打合せ」まで、延べ11回の打合せを重ねました。本番当日は、1,500人も多くの市民が来館され、各イベントとも盛況裡に終わることができました。オープニングイベントを通して、生涯学習センター（中央公民館）との連帯感とボランティア同士の強い絆を実感することができました。

今日5/21(土)はボランティアデー
～生涯学習センターボランティア「Lの会」による
オープニングイベント～

1日お楽しみください♡
会場：生涯学習センター

時間	イベント	会場
10:00～10:30	鳥居原を駆け抜けよう(コーラス発表)	市民ホール (4階)
10:30～11:00	餅・お餅講座 (華三夫人・秋山由緒・ユニアワラジ・津島氏)	
11:20～12:00	刀代太郎(白山小学4・5・6年生)	市民ホール (4階)
12:00～12:30	みんなで作ろう 紙のよけろしこ、サンバ(ら、カッタ 他)	

時間	イベント	会場
13:30～14:30	吹奏楽演奏 (美小学校、奥アラスモコース、 北上市吹奏楽連)	市民ホール (4階)
14:30～15:30	やっぴあよう! お餅・お餅・お餅	4階 室 (2階)
14:30～15:30	水筒で遊ぼう!	市民ホール (4階)
15:00～15:00	子どもに作り (絵画・折り紙等) ※ 事前に申込みが必要です。 参加費 1人、500円	市民ホール (5階)
15:30～16:00	メッセージを書いて風船を飛ばそう!	市民ホール

【行事日程】 5月21日(土)～27日(金) 10時～16時
※ただし、23日(月)は休館日です。

内容	会場
にいがた市立大学10周年記念	403講義室 (4階)
マイアツ組5周年	403講義室 (4階)

6 平成17年度の事業計画

平成17年度「Lの会」主催事業の幾つかを紹介いたします。

7月 高齢者対象

「パソコン 最初の一歩」

8月 「子どもが先生 (パソコン)」

「夏休み 親子映画会」



笹ダンゴ作り

ビデオで故郷を「ヒーアール

びでおさーくる・みつげ

今から約三十年前、小学四年生の社会科副教本映画を作るため集まったアマチュアカメラマン達が基になり、今のサークルが出来ました。



それ以来「自分達が撮影した映像を大勢の皆さんに見て欲しい」そんな思いで、毎年春に中央公民館で公開映写会を開催し、会員の作品を上映しています。

出来るだけ地元に関係した「行事、風景、人物」など、誰にでも分かり易い作品作りを

心掛けています。

また、初心者を対象にビデオ撮影講座を開いて、「出来るだけ多くの人達に映像創りの面白さを知ってもらい、少しでも地域に貢献しながら同じ趣味の仲間の輪を広げたい」という思いで活動しています。

びでおさーくる・みつげ

代表 関 幸徳 記



ピアノの練習に向かう上達の喜びを体験

ピアノサークル 「おたまじゃくし」

町では、60歳以上のピアノ講座生を毎年募集しています。私もその一人、講座課程はピアノ講座の場合二年まで受講できます。もつとやってみようという人はサークルを作ります。最初は両手で弾くドレ



ミファは至難でした。弾くというよりも、キーを力いっぱいたたいていたような気がします。

サークルも三年目。一人も脱落者なし。右手左手…黒鍵ペダルもこなせるようになりました。月四回講師を招いて二時間、みんな少年少女の顔。最初はみんな指の動きを良くするトレーニング。その後は一人一人の指導。童謡・フォークソング等レベルに合わせて練習しています。ストレス発散・脳活性、色々な会話が飛び交い楽しく活動しています。

湯沢町 ピアノサークル

「おたまじゃくし」

代表 小泉 美知子 記

4月に異動して来られた佐藤直人教育文化グループ長は、牧地区公民館のすぐ近くに住んでおられるので、地域の方々とも顔なじみで親しまれています。教育分野の仕事は初めてのことですが、今まで牧村の財政担当や保健福祉課長等を経験されており、それらのキャリアを生かしつつ、日々公民館をはじめ体育施設、学校、資料館等所管施設を飛びまわっています。4人のスタッフの中で男性は佐



上越市教育委員会牧区分室

顔役グループ長 佐藤 直人さん

藤グループ長ひとりなので、力仕事はグループ長が頼りです。また、グループ長はとってもきれいな好きで、よく気が付いて、いろんなところを片付けたりしてくれます。牧区出身で牧区を愛するグループ長がそばにいてくれるので、旧上越市職員の私はとても心強いです。

(上越市教育委員会牧区分室 社会教育主事 小池 和美 記)

今年4月に田上町公民館へやってきた、愛称「ツッチー」こと土田孝氏。「ツッチー」という愛称がとってもお気に入り、各札も「ツッチー」と記されております。そんなツッチーは、海外旅行が大の趣味。ツッチーのおみやげには、大いに盛り上がりました。子どもからお年寄まで、どの年代層にも人気のツッチー。ご自身が詩歌を楽しまれており、語彙力は抜群、起案する講



田上町公民館

主査 土田 孝さん

座の募集文句のセンスはピカイチです。ツッチーの仕事は多岐にわたっていますが、中でも町の各種文化団体を取りまとめる力といたら、類まれな才能の持ち主です。

こんなに楽しく、和気愛愛(笑)と仕事ができるのも、ツッチーのお陰です。ツッチーの、さらなるご活躍に皆が期待している今日この頃です。

(田上町公民館 主事 小柳 加奈子 記)

素顔拝見

Net work ネットワーク

平成17年度 下越地区公民館関係役員研修会開催案内

- 1 研修テーマ 変化する時代における公民館のあり方
～社会の要請に応える公民館～
- 2 主催 下越地区公民館連絡協議会
- 3 共催 新潟県教育委員会・新潟県公民館連合会・佐渡市教育委員会
- 4 主管 佐渡市公民館
- 5 期会日 平成17年9月29日(木)から30日(金)
- 6 会場 秋津温泉 両津やまきホテル
- 7 対象 公民館職員及び公民館運営審議会委員等
- 8 日程

	13:00	13:30	14:00	14:10	17:30	18:30	20:00
第1日目 9/29(木)	受付	開会式	移動	分科会	休憩	情報交換会	
	9:30	10:00	11:30	11:45			
第2日目 9/30(金)	分科会報告 講評	講演会	閉会式				

- 9 分科会
第1分科会 これからの公民館運営
第2分科会 家庭教育と公民館
第3分科会 学校・地域を結ぶ公民館
第4分科会 公民館初任者研修会
- 10 分科会講評 下越教育事務所 社会教育課長 佐藤強平 様
- 11 記念講演会 演題「地域おこし」
講師 加藤宏文 様
- 12 参加経費 ① 会議資料代 2,000円
② 会議資料代+情報交換費 (7,000円) 9,000円
③ 会議資料代+情報交換費+宿泊代 (9,000円) 18,000円
※なお、9月9日(金)以降の取り消しについては、資料代を負担していただきます。
- 13 申し込み等 8月19日(金)までに別紙参加申込書により、各市町村分を取りまとめ事務局へメール・FAXで申込みをお願いします。
参加費は上記口座に8月26日(金)までに振り込んでください。

佐渡農業協同組合 加茂出張所 普0001677
佐渡市公民館 館長 伊藤 博

- 14 会場案内 (省略)
- 15 事務局 〒952-0005 新潟県佐渡市梅津2314-1
佐渡市公民館 TEL 0259-27-4181 FAX 0259-24-1344
メール gakusyuu@city.sado.niigata.jp

恵贈資料紹介

レシピ・黒米のオリジナル料理

十日町市中条の笹山遺跡出土の火焔型土器等が、平成十一年六月七日に国宝指定されたのを機に、地元中条地区振興会が平成十二年六月四日、国宝指定一周年記念イベント「笹山じょうもん市」を開催。その折「縄文の食」部門を担当し、それ以降毎年縄文食を継続、提供しているのが笹山縄文どんぐりクラブだそう。



主食としてでなく、鮮やかな色彩とプチプチした食感を生かし、おかずやおやつに採り入れることにしたそうです。

キーポイントは、①黒米の特質を知り、②それぞれの料理に合った黒米の炊き方を考え、③下ごしらえに手を抜かないことだそうです。何かに通じるものがあります。

◆問合せ 発注先等
① 頒価 六〇〇円
(送料一八〇円)
〒九四九-一八六一五
十日町市中条旭町八二八
笹山縄文どんぐりクラブ
世話人 田村シゲ
TEL・FAX
〇二五-七五七-〇三二五

event information

2005年夏の特別展

探ろう! 植物のふし

7・23(土)～8・31(木)

新潟県立自然科学館

〒950-0940 新潟市中央区3-1-1 TEL.025-283-5331

2005年 夏の特別展

MISSION TO SATURN

宇宙探査機 カッシーニ

新潟県立自然科学館

TEL.025-283-5331 FAX.025-283-5332

第56回県公民館大会も、盛況に終った。ここに、渡辺十寸雄委員長はじめ、会場地新潟市白根地区公民館並びに新潟市公連の実行委員の皆さまのご尽力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第46回関プロ公連公民館研究大会も間近に迫って参りました。23名の少数参加です。最後に一言お詫び

月報七月号③面平成17年度中越地区公民館特別研修会の開催日、六月三日(金)と会場長岡リリックホールの掲載漏れがありました。

(鈴木 記)